



校章の由来

～100年を超えて受け継ぐもの～

第21代校長 塩原 正美

関東甲信地方では、7月22日（土）に梅雨が明け7月26日以降は、10年に一度クラスの高温になるといわれ、実際その通り連日過去に経験したことがないような暑い日が続いています。猛暑の中にあっても、硬式・軟式野球部、サッカー部がグラウンドで、ソフトテニス部がテニスコートで練習しています。また、バレーボール部、バスケットボール部、バドミントン部が、外部施設を利用して連日練習に励んでいます。休息や水分補給をこまめにとり、熱中症に十分注意して欲しいと思います。思い返すと自分が高校生の時は、練習中に水分補給はもつてのほかで、水を飲むと「ばてるぞ」といわれ、水分補給をさせてもらえなかったそんな時代でした。（休憩時間に顔を洗うふりをして飲んではいましたが・・・）よく脱水症や熱中症にならなかったものだと思います。

さて、話は変わりますが本校の校章を知っていますか。「實」の文字を八角形で囲んだものです。この八角形は蕾を表しています。この図案を考案されたのが、当時図画を教えられていた太田新吉先生です。太田先生は、「自分もいろいろ考えたが、咲いた花はやがて散る運命にある。若い君たちは花木でいえば実生であり、あるいは蕾で、卒業してから木となりなり花を咲かせるのだ。そういう意味で八角形で形どり、商工実習の実を取り入れ図案化して、将来立派な花を咲かせる意を含んでいる」とおっしゃったそうです。創立2年目の大正10年から学帽の徽章と制服の金ボタンに校章としてデザインされました。（昭和62年発行の冊子「名教自然」より）

実は別の説として、これは自分が商工在学中に、八角形は金槌の金属の部分を表し、また算盤の珠を表していると聞いた覚えがあります。正しいのかどうか今となってはわかりませんが・・・？

正門入って右手にある木にも意味がありました。詳細は9月の校長コラムでお知らせします。



創立60周年記念植樹
(商業の木・・楠 工業の木・・椎)